

民生文教 常任委員会 Report

玉村町の公共交通機関について調査 利用者数増に向けて 抜本的な見直しを

●玉村町の公共交通機関運行の現況（事業費 万円未満四捨五入）

①乗り合いタクシー「たまりん」：平成13年から運行事業者に補助金を交付し、運行を開始している。現在は、町内便4コース（北、南、西、東）、町外便2コース（伊勢崎直行、高崎直行）が運行されている。利用者数は平成18年の2万7791人をピークに減少傾向が続いており、令和3年度は6670人、事業費（補助金）は3398万円（車両更新費527万円含む）である。単純に計算すると、1人1回の乗車に約5000円の補助額である。

②路線バス：委託路線（永井バス）として、玉村―前橋、玉村―新町がある。令和3年度の利用者は10万8867人、事業費（負担額）は816万円（前橋市と距離按分、車両更新費292万円を含む）である。他に自主路線（群馬中央バス）として、玉村―高崎、玉村―伊勢崎があり、令和3年度の利用者は4万375人である。

③タクシー：高齢者の足の確保、高齢ドライバーによる交通事故防止を目的に、町内3社で利用できるタクシー利用補助券の交付を行っている。令和3年度の交付者は1051人、事業費（補助金）は750万円である。

まとめ

玉村町では公共交通として、たまりん、路線バス、タクシーが運行されているが、各々が大きな課題を抱えており、地域の実情に合わせて利便性を高め、利用者増を図ることが喫緊の課題である。特に、「たまりん」利用者の減少状況は深刻である。公共交通として財政負担は必要だと思われるが、デマンド型交通などを含め、根本的に見直す必要がある。さらに、文化センター西側交通広場への路線バス乗り入れ、タクシー利用補助券の使い勝手の改善なども必要である。多くの町民の声を聴き、玉村町に最も相応しい公共交通機関を作り上げることが望まれる。今後設置予定の庁内検討会議において、関係各課と連携し、課題解決に向けて格段の注力を望む。

委員長 新井賢次 委員 備前島久仁子
副委員長 羽鳥光博 委員 三友美恵子
宇津木治宣
笠原則孝

所管事務調査日：令和4年5月16日



運用の見直しが望まれる「たまりん」



地域住民の足をどう守るか(文化センター西側の交通広場)



路線バスの利用者減も喫緊の課題(県立女子大前)

総務経済 常任委員会 Report

役場庁舎の維持管理について調査 計画的かつ適切な維持管理 による長寿命化の推進

●調査の概要

今回、役場庁舎の維持管理について調査した。また、令和3年度に実施した「玉村町地域レジリエンス自立分散型エネルギー設備等導入事業」の整備状況についても現地調査を行った。維持管理の指針となる個別施設設計画の策定に当たっては、職員による施設の点検・評価が行われた。その結果、総合的には健全度が74とそれほど悪くはないということであったが、委員から劣化度等の判定に当たっては専門家の助言を取り入れるべきではないかとの意見もあった。

●維持管理の状況

役場庁舎の維持管理の状況については、機械設備が老朽化していたことから「玉村町地域レジリエンス自立分散型エネルギー設備等導入事業」により役場庁舎及び保健センターの空調設備等の改修工事を実施した。この事業では、太陽光パネルを屋上及びカーポートに設置し、蓄電池で電気を蓄え、災害時に利用できるようなっている。また、空調設備の更新、照明設備のLED化により、常時の空調利用に快適さが生まれ、事務フロア、議場も明るくなった。

委員長 浅見武志 委員 堀越真由子
副委員長 小林一幸 委員 松本幸喜
月田均樹
高橋茂樹

所管事務調査日：令和4年5月17日



庁舎の屋上に設置した太陽光パネル



カーポートの上に設置した太陽光パネル



電気を蓄え、非常災害時に利用

まとめ

今までは、老朽化による劣化・破損等の不具合が生じた後に修繕を行う「事後保全型」であったが、不具合を未然防止する「予防保全型」の管理へと転換を図ることによって、適切な維持管理を期待する。維持管理費用の平準化、中長期的なトータルコストを下げることで、更新年数を延ばすことを目指し、今後は、老朽化した庁舎の給排水設備をはじめ、内壁や天井クロス、階段、廊下の張り替え等、順次、計画立てを行い、適切な維持管理にあたっていくことを期待する。